

## 『すべての逆境を祝福に』 創世記39章1～5節 2018.2.4(主日礼拝説教より)

『あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。…私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。』  
ヘブル人への手紙10章36、39節

❶天の御心を、人を通し、歴史を通して「地に」実現される神…ヨセフの生涯は6場面…①父の偏愛と夢、②兄弟の妬みとエジプトへ、③神の臨在と周囲の人の好意、④パロの夢と夢解き、⑤自然界の異変(豊作と飢饉)に対処、⑥家族との再会と和解！ヨセフが自分の見た夢を語った時、兄たちは怒り『今こそ彼を殺し…あれの夢がどうなるかを見よう』創世記37:18～19と。普通ならヨセフの人生は、ここで終わるはずだが、あれは「神からの夢」！二人の兄がヨセフを助け、エジプト行きの商人に売られ、不思議な出来事の末、家族全員救われる…背後に神の計画とヨセフの神への信頼があった(箴言 3:6)。ヨセフは、兄弟からの酷い仕打ち、奴隷生活、冤罪で13年投獄の中、希望を失わなかった…その唯一の理由は『主が共におられた』から！★この臨在は、全てのクリスチャンにある！どんな時も、この神を信頼する時、必ず助けがあり、祝福の道を真っ直ぐ進む！神は苦難の中で人を訓練する(詩篇 105:19)。かつて過保護で甘えん坊だったヨセフは、その13年間で、人として、信仰者として、立派に成長⇒使徒 7:9～10。

❷父の御心を実現する最短距離…闘争的で神の祝福にしがみつく父ヤコブと対照的に、ヨセフは「お任せ」タイプ。一見、状況に翻弄されるばかり…。しかし共におられた神は、試練の中で常に助け、逃れの道を用意された！ヨセフは、苦難の中で何一つ愚痴らず、じっと神の「時」を待ち、前の扉が開かれるまで何年でも忍耐した！直接導いたヤコブの場合と違い、神はヨセフを、周囲の人たち(兄たち・ポティファル・監獄長・パロ…)を通して導かれた！神は御心を実現するために、しばしば人を「苦難」の牢獄で訓練される！しかし、その「苦難のトンネル」が、どんなに辛く暗くても必ず出口があり、抜けた時に知る！『忍耐』こそ祝福への最短距離だったと(ヘブル 10:36,39)。それは『共におられる神に期待して楽しみに待つ』こと！その人は、愚痴らず自分のベストを尽くす！ヨセフも忍耐の末、全ての逆境が祝福になったと語る(創世記 50:20)。

★あなたは、主がともにおられることを信じ、忍耐して待ち望み、神の最善を期待するだろうか？今の場所で、主からの知恵と恵みをいただきベストを尽くそう！